

ま ち の 話 題

豊岡

法花寺万歳 江戸時代から伝わる祝福芸で 新年を祝う



保存会による太夫と才若の掛け合いに見入る来場者たち

1月3日、おどけた踊りと縁起の良い歌で新年を祝う「法花寺万歳」が、新年に特別開館されたコウノトリ文化館で披露されました。法花寺万歳は、今日の漫才の起源と言われ、市と県の無形民族文化財に指定されており、地元住民らが保存会を設立して伝承してこられました。

当日は、えぼし姿で扇を持った太夫と、大黒頭巾に鼓を持った才若が、三味線に合わせて巧に掛け合いをしながら舞を演じました。岸和田市から旅行で訪れた若林知州子さんは「雪景色の中のコウノトリと万歳は、どちらも美しく感動しました」と話していました。

城崎

円山川 ボート初漕ぎ 新年に願いをこめて 颯爽とこぎ出す

1月5日、地元のボート愛好家らによる「初漕ぎ」が、城崎町の円山川城崎漕艇場で開催されました。

初漕ぎは、「のじぎく兵庫国体」の開催を機に「新春の風物詩となるようなイベント」と、円山川城崎ローイングクラブの主催により開催され、今回で3回目を迎えました。

当日は、好天に恵まれ雪化粧をした城崎温泉街を背景に、城崎中ボート部員ら約30人が、新年の目標を胸に6艇のボートに乗り込み、円山川を力漕しました。初漕ぎの後には温かい力二汁が振る舞われ、参加者は冷えた体を温めていました。



幻想的な雪景色の中、円山川の川面を滑るように快漕する参加者たち

竹野

第2回新春かるた大会 お手つきはダメよ



百人一首に挑戦する子どもたち。上の句が読まれるだけで札を取る姿もあった

1月12日、第2回新春かるた大会を図書館竹野分館で開催しました。

当日は、大正琴を演奏するグループ「清恵会」のメンバーによる大正琴の演奏会が行われた後、市内の幼稚園と小・中学生28人が、いろはかるたと百人一首に挑戦。子どもたちは読み上げられた歌を、目の前に並べられた札の中から真剣な表情で探し出していました。

いろはかるたの部で優勝した榎垣 誠くん（神美小3年）は「決勝戦で21枚も札が取れたのでよかった」。百人一首の部で優勝した仲田 怜奈さん（竹野小5年）は「楽しかったので来年も出たいです」とそれぞれ話していました。

まちの情報などがありましたら、秘書広報課広報広聴係まで連絡ください。



3年生以上の児童は、体育館に一堂に集まり、一字一字に心を込めて書き初めを行った

日高

新春書き初め大会

今年も頑張ろうという 思いを込めて

1月11日、八代小学校では、全校児童48人が参加する「校内新春書き初め大会」が開催されました。

この大会は、日本古来から伝わる書き初めを通して、書に対する関心を高めるとともに今年1年を頑張ろうという思いを込めて毎年行われているものです。

1、2年生はフェルトペン、3年生以上は毛筆を使って、冬休みの間、各家庭で練習した「大きな希望」「広がる輪」「美しい心」などの言葉を、集中して3枚の紙や長半紙に清書しました。そのうちの1枚は、玄関の掲示板に展示され、校内は新春の雰囲気になりました。

出石

どんど焼き集会 今年1年の 無病息災を願って



書き初めをした半紙が高く舞い上がるたびに、子どもたちは歓声を上げていた

1月11日、どんど焼き集会が福住小学校のグラウンドで行われました。この集会は、地域の方の協力により古くから続く恒例行事です。当日は、幼稚園児から6年生まで194人が門松やしめ縄、書き初めなどを焼いて火にあたり、今年1年の無病息災を祈りました。児童会長の河谷大地くん(6年)は「中学に進学しても勉強や友達づくりに頑張れるよう、健康でいられるように願いを込めました」と話していました。毎年どんど焼きのお世話をしている伊藤 勇さん(出石町中村)は「子どもたちには日本の伝統行事にふれてもらって季節を感じてほしいです」と目を細めていました。

但東

干支看板に交通安全を呼びかける標語

スピードチューー!

1月11日、但東町栗尾の国道426号沿いにある今年の干支「子」をデザインした巨大看板に、交通安全を呼びかける「スピードチューー」と書かれた標語のパネルが取り付けられ、ドライバーの目を引いています。

看板は、同区の「栗尾ふるさと135委員会」によって、昨年12月に建てられたもので、今年で8年目となり、毎年1月10日の「110番の日」ごろに警察と共に交通安全を呼びかけるために取り付けられています。同委員会長の西垣 勉さんは「地域の皆さんの協力により建てることができました。交通安全につながればいいですね」と話していました。



交通安全にも一役買っている干支看板。ドライバーの目を引いている